

# 令和4年度社会福祉法人遠野市保育協会事業報告書

遠野市内における子育て支援を実践する社会福祉法人として市民の期待や負託に応えるため、令和4年度においても市内全域の保育園の経営、児童館の指定管理、児童クラブ等の受託運営を行いました。

また、自らの経営体質を強め経営の持続可能性を高めること等を目指して各種事業に取り組みましたので、次のとおり添付資料と併せて報告します。

## 1 法人運営

第二種社会福祉事業である保育園13か所の経営を行ったほか、児童館7か所の指定管理並びに児童クラブ4か所、地域子育て支援センター「まなざし」、「こども本の森遠野」及び病児等保育施設「わらっぺホーム」の受託運営等の事業を展開し、遠野市における子育て支援の中核的な役割を担うとともに、当法人を取り巻く環境の変化への円滑な対応を図り安定的な経営に努めました。

### (1) 社会福祉法改正への対応

経営組織のガバナンスや財政規律の強化では、会計監査人による監査を継続し適切な会計処理の強化、ICTの推進等による業務の効率化及び効率的な経営に努めるとともに、事業運営の透明性の向上に向けた情報の公表、公開など適切な対応に努めました。

地域における公益的な取組においては、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら出来る範囲での取組みを展開しました。

また、遠野市社会福祉法人等連絡会に参画し、遠野市社会福祉協議会を始めとした社会福祉法人等との連携を深めながら、地域共生社会の実現に向けた取組みも推進しています。

なお、保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除した上、再投資可能な財産（社会福祉充実残額）を算定しましたが、残額は生じませんでした。

### (2) 第2期健全経営計画（元気プラン）の的確な推進

計画（元気プラン）の的確な取組みに努めましたが、ここ数年の急激な出生数の減少により本計画との乖離が大きく、法人経営にも大きく影響する状況となったことから、委託費の再試算、保育園定員の見直し（※(8) 保育園定員の見直し参照）などを行いました。

また、今後の取組みの参考とするため、人口減少に伴う入所児童数等について計画と現状の比較を行い、計画の「令和4年度までの実績及び取組状況」をまとめました。その結果、人口減少及び出生数の減少等に伴う入所児童数の減少が予想を上回る速さで進んでいることを改めて確認したとともに、中・長期的な視点に立った経営の健全化に引続き取組み、足腰の強い経営体の構築を目指していくことを再確認したところです。

### (3) 適正な会計処理と監査機能の充実

「社会福祉法人会計基準」に則した適正な会計処理に努めるとともに、公認会計士による外部監査体制及び税理士による会計指導を継続し、計算書類等の信頼性の向上を図りました。また、会計担当者対象に会計処理能力向上に向けた研修も実施しました。

監事については、施設の運営等に視点を置いた監査や指導を行いました。（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

#### (4) 広報活動の強化と情報発信の取組

保護者や市民等に対して、保育園、児童館、児童クラブ、子育て支援センター及び病児等保育施設の子どもたちの様子や活動の内容等の発信に取り組みました。

##### ア ホームページ

各施設、季節ごとの活動内容や子どもたちの様子、お知らせなどを随時更新し、新しい情報を伝えるように努めるとともに、社会福祉法人としての情報を掲載しました。

ホームページへのアクセス数は、協会全体で 146,468回と前年比 133%となりました。

##### イ 協会広報誌「かたぐるま」の発行

令和3年度の事業報告・決算、令和4年度の事業計画・予算、職員募集、各施設の活動状況、子育てワンポイントなどを掲載し、年2回（8月・11月）全戸配布しました。

##### ウ オリジナル番組「とおのっこバンザイ」

「かがやく 未来の とおのっこ」を共通テーマに各施設での児童の様子や行事などを遠野テレビと連携して制作し、毎月第4火曜日に放送を行いました。

##### エ 「メール送信システム」の活用

感染症情報や緊急時の連絡等の情報伝達を速やかに行い、保護者との情報共有を図りました。

#### (5) 職員体制等

##### ア 人材の安定的な確保及び処遇改善

多様化するニーズに対応するとともに、質が高く、安定したサービスの提供を実施するためには、専門性の高い人材の確保が重要なことから、採用試験の年2回（6月・9月）の実施及び奨学金返済支援制度の継続などにより人材確保に努めました。

また、魅力ある職場づくりや人材の確保・定着を図る一手法として、処遇改善一時金、処遇改善手当及び処遇改善特例手当の支給など処遇の改善（臨時職員含む）を実施しました。

今年度当初の職員（嘱託職員・正規職員・臨時職員・パート職員等）は 264人で、業務施設別には次のとおり配置しました。退職職員は4人（保育士4人）でしたが、保育士3人、遊びの指導員1人を採用し、正規職員の数は97人（前年同様）となりました。

年度当初の職員状況

（単位：人）

	嘱託職員	正規職員	臨時職員		合計
			基準職員	パート職員等	
保育園	1	82	51	50	184
児童館等	5	9	12	36	62
子育て支援		(兼1)	4	1	5
病児等保育		1	1	5	7
本部事務局	1	5	0	0	6
合計	7	97	68	92	264

## イ 人材の育成（研修等の充実）

組織内研修と組織外研修を連動させ、勤務体制の工夫などによる体系的かつ計画的な研修機会の確保により積極的に研修等への参加を促し、職員の資質向上と人材の育成に努めました。更には、令和3年度に導入したリーダー制を継続し、キャリアパス制度と連動した人材育成及び職員の意識改革に努めました。

## (6) 安全管理（リスクマネジメントの取組）

施設内外で想定される事故等のリスクを洗い出し、分析し、再発防止や施設内外の安全点検を行い再発防止や類似事故の発生予防に努めるとともに、災害や事故の発生に備え、定期的な避難訓練等も実施しました。また、感染症などの発生予防、発生した際の拡大防止を図るためのマニュアルの再確認や嘱託医、保健所等との連携の強化に努めました。

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症予防対応として、3密の回避、マスク着用、手指消毒、換気等の基本的感染予防対策の周知徹底に努めました。また、関係施設に感染者が確認された場合は、市関係課及び教育委員会と連携し、保健所の指導や嘱託医の意見を聞きながら拡大防止に努めました。

セキュリティ対策においては、職員のセキュリティ意識、対応能力の向上を目的とし研修会を実施する為の準備を進めました。

## (7) 会議等の開催

### ア 評議員会の開催（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

役員を選任、法人運営の重要事項等について決議していただくため、定時評議員会を開催しました。

### イ 理事会の開催（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

法人の業務執行に関する重要事項等について決定を行うため、7回開催しました。

### ウ 経営会議の開催

業務上の重要事項等の検討及び法人を取り巻く状況等の情報共有を図るため、4回開催しました。

### エ 福祉サービスに関する運営適正化検討会議」の開催（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

苦情解決第三者委員及び全施設長等で組織する「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」を開催し、保育園や児童館等の施設に寄せられた苦情、起こった事故等について事例検証を行い、意識等の共有化と再発防止に資するため2回開催しました。

### オ 契約等予定者選定委員会の開催（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

工事及び物品購入等業者選定の適正を図るため、5回開催しました。

### カ 園長会議及び館長会議の開催

保育園、児童館等施設間の連絡調整や相互連携を図るため、園長会議及び館長会議をそれぞれ、毎月開催しました。

なお、合同のものは、施設長会議を開催するなど対応しました。

### キ 法人設立50周年に向けた取組

令和6年2月に設立50周年を迎えることから、記念イベントの開催日及び方針について検討を行うなど準備をスタートしました。

## (8) 保育園定員の見直し

入所児童の保護者を通じた声掛けや地域の行事参加等により更なる認知度向上を図るなど、入所児童の確保に努めましたが、出生数の急激な減少に伴う入所児童数の減少が著しいことから、経営等を考慮して利用定員の見直しを行いました。

保育園定員の見直し(令和5年4月適用)

(全体定員 640人 ⇒ 580人)

保育園名	見直しの視点	変更前の定員	変更後の定員	増減
神明保育園	減員	50	40	△ 10
綾織保育園	減員	50	40	△ 10
松崎保育園	減員	50	40	△ 10
土淵保育園	減員	50	40	△ 10
青笹保育園	減員	80	70	△ 10
達曽部保育園	減員	30	20	△ 10

## 2 保育園の経営

全保育園において「子どもたちと共に笑顔の花が咲く職場」を目指した保育及び運営に努めました。

保育においては、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの健康及び安全を確保しつつ、子どもの一日の生活や遊びの発達過程を見通し、子ども主体の保育についての実践に努めました。

運営においては、宮守3園のうち、協定に基づき遠野市から委託費助成を受けたのは、達曽部保育園、鱒沢保育園でありました。9か所の保育園においては積立資産（人件費又は施設整備）への積立ができるなど経営の努力や公定価格の単価改定などの要因により安定した経営が図られ、概ね順調に推移しました。

なお、委託費収入に対する人件費支出の割合（人件費率）は、処遇改善Ⅱ、処遇改善特例手当及び定員変更等に伴って委託費収入が増加し、前年比 0.6ポイント増となりました。

委託費・人件費

(単位：円、%)

	R 4	R 3	R 2
委託費収入	867,546,290	863,279,210	857,625,827
人件費支出	716,907,258	707,889,575	699,567,584
人件費率	82.6%	82.0%	81.7%

保育園の職員配置においては、年度途中での有資格者の確保が難しい状況を踏まえ、年度当初から職員配置基準を意識した有資格者の確保に努め、途中入所増にも対応できる体制づくりに努めました。

また、主任及び副主任保育士が、現場での問題解決に向けた職員間のパイプ役として取組み、専門職員相互の機能性を高めるとともに、保育業務をチームとして遂行するようにしました。

## 職員配置状況

(単位：人)

	園長等	基準職員等					基準外職員					合計
		保育士	看護師	栄養士	調理員	計	保育士	保育補助	調理補助	看護師	計	
①当初配置	14	94	3	9	15	121	19	22	6	2	49	184
うち正規職員	13	58	2	9	0	69	—	—	—	—	—	82
②年度末配置	14	97	3	9	15	124	21	22	7	2	52	190
①－②	0	3	0	0	0	3	2	0	1	0	3	6

## (1) 入所児童

入所児童数は、595人（当初入所児童数 537人でスタート）と総定員(640人)比92.9%と下回りました。これは、少子化に伴う児童の減少が原因と考えられます。

## 入所児童数

(単位：人)

	R 4	定員(640人)比	R 3	R 2
当初入所児童数	537	83.9%	587	630
当初入所児童見込数	567	88.5%	610	658
入所実績	595	92.9%	629	682

## (2) 保育の質向上への取組

入所している子どもたちの最善の利益を意識し、一人一人の発達過程に合わせた充実した活動ができるよう、次のような保育の質を高めるための取組みを行いました。

## ア 保育士等の専門性の向上

質の高い保育を展開するためには、保育園において子どもに関わるあらゆる職種の職員一人一人が、その資質を向上させることが大切ですので、園内研修及び専門部会研修会（主任、副主任、栄養士、看護師、調理員及び5歳児の6グループ）を開催するとともに、県内外の各種専門研修に積極的に参加させ、職員の自己研鑽意識の醸成を図るなど資質の向上に取り組みました。

## イ 組織的な取組

各保育園で保育計画の展開状況や保育士等の自己評価を踏まえ、園としての保育内容に対する自己評価を実施するとともに、評価結果を分析し、園として取り組むべき課題を明確にして改善を進め質の高い保育サービスの提供に努めました。

## ウ 多様化する保育ニーズへの対応

女性の就業率の向上、就労形態の複雑化、核家族化など子どもに関わる環境の変化により多様化するニーズに対応するため、各保育園で提供している特別保育事業（地域活動・延長保育・一時保育・休日保育・障がい児保育）を実施しました。

## エ 子育て支援・相談体制の充実

保護者の気持ちを受け止め、抱えている子育ての問題や課題に対して、専門性を活かした

支援や相談に努めました。

また、入所児童にとどまらず地域に開かれた子育て支援に関する拠点としての役割を担うべく取り組みました。

#### オ 食育の充実（詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

食育を保育内容の一環として位置付け、安全安心、“楽しい食”と“健康”を守る自園調理の提供に取り組むとともに、保護者への情報提供にも努めました。

また、食物アレルギーの対応には十分注意をはらい9保育園において23人分の除去食も実施しました。

#### カ 公開保育の実施

各保育園での園内研修の事例から学び合い、刺激を受け、自身の保育や課題を見つめ直すことを目的に、自主研修組織双葉会と連携し公開保育を次のとおり実施しました。

#### 公開保育実施状況

公開施設	公開月日	テーマ
宮守保育園	令和4年9月8日	自発的・意欲的に遊ぶための環境作り ～一人一人の心が動く環境のあり方を探る～
白岩保育園	令和4年9月21日	主体性を育む保育 ～対話的・応答的関わりを通して～
綾織保育園	令和4年9月27日	遊びの中で育つ豊かな学び ～すきな場所♡すきなこと～
松崎保育園	令和4年10月14日	子どもの育ちを支えるみんなの輪 ～保育所の特性を生かした子どもの食生活を支える 為の支援をめざして～

#### (3) 園舎等の施設整備

今年度は、長期施設整備計画に基づく改築整備は無く、委託費の中で必要な施設補修等を実施し、施設の安全管理に努めました。

#### (4) 小学校等との連携

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭におき、アプローチカリキュラムを作成し卒園後のスムーズな学びへの接続を意識した主体的で共同的な活動の充実を図るとともに、保育園から小学校に入学する全卒園児の情報提供（保育要録）を各入学予定小学校に提供しました。

### 3 児童館・児童クラブの運営

令和4年度も遠野市から7児童館を指定管理、4児童クラブを受託し、市内11小学校区全ての放課後児童の居場所として、遊び（体験・交流・学び等）を通して健全育成を図りました。

学校行事等の影響により利用状況は増減しますが、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しているなかで、放課後の居場所としての役割は益々重要となっています。

児童館・児童クラブの利用登録児童数（実数）

項 目		R 4		R 3		R 2	
		実績 (人)	前年比 (%)	実績 (人)	前年比 (%)	実績 (人)	前年比 (%)
小学生	年間延べ利用人数	111,082	90.2	123,151	95.1	129,474	105.9
	1日平均利用人数	40.3	90.0	44.8	95.1	47.1	106.1
全体	利用人数	114,238	90.0	126,920	94.8	133,938	114.2
	1日平均利用人数	41.5	90.0	46.1	94.7	48.7	114.3
土曜日	利用児童数	381	70.6	540	115.1	469	91.8
	開館日数	65	85.5	76	111.8	68	95.8
	1日平均利用人数	5.9	82.6	7.1	102.9	6.9	95.8
年間延べ開館日数等 (土曜日を除く)		2,750日		2,750日		2,750日	

※全体＝小学生、幼児、中学生、高校生、一般の利用者の合計

(1) 職員配置

館長は、複数館担当として5人を委嘱し、7児童館・4児童クラブに配置しました。近年、館長の地域における役割や職務等が多様化してきていることから、職務内容や委嘱期間等の改善に向けた検討を行い、令和5年度以降は、館長を中学校区ごとの3人体制に変更するなどの見直しを行うこととしました。

職員体制は、各館2人を基本として上席主任1人、主任1人と副主任2人、遊びの指導員を配置するとともに、利用状況に応じて柔軟に増員対応し活動の充実を図りました。

職員配置状況

(単位：人)

館長	遊びの指導員					計
	上席主任	主任	副主任	指導員		
				児童館	児童クラブ	
5	1	1	2	21	9	39

(2) 指導内容の充実（活動状況の詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」参照）

遊びによる心身の健康維持及び知的・社会的能力を高める様々な活動に自発的に取り組めるような事業やプログラムを工夫するなど内容の充実に努めました。

更には、全児童館・児童クラブや中学校区ごとに交流する場として、合同事業を実施しました。

(3) 職員の資質の向上

児童館・児童クラブは、年齢や発達状況が異なる子どもたちが一緒に過ごす場所であるため、職員には適切に関わる専門性が求められることから内部研修の充実を図るとともに、「児童厚生2級指導員研修」及び「放課後児童支援員資格研修」に積極的に参加させるなど資質の

向上に努めました。

#### (4) 要支援児童への対応

専門家による講義及びケース検討研修を実施し、障がいの理解及び保護者を含めた適切な対応や支援の仕方などについての対応力向上に努めました。

また、小学校と情報共有や連携を密にするとともに、こども政策課、健康福祉の里、花巻清風支援学校等の専門機関と連携して、支援が必要な児童や保護者に寄り添った支援に努めました。

要支援児童数（病名が有る児童）（単位：人）

R 4	R 3	R 2
31	31	29

#### (5) 子育て（サークル活動）支援

就学児童が利用しない午前中の時間帯を中心として、在宅の親子に児童館・児童クラブ施設を活動場所に開放しながら、仲間意識の高まりや自主的に活動が行えるよう支援を行いました。

また、支援センターや保育園と連携して、子育てに関わる悩みや相談対応を行いました。

各地域子育てサークルの状況

（単位：世帯）

子育てサークル名	関与館名	登録世帯数			活動内容
		R 4	R 3	R 2	
ひよこクラブ	遠野児童館	11	16	22	詳細は、別紙「事業報告の附属明細書」地域子育て支援センター「まなざし」の活動(4)各サークルの活動状況を参照
すくすくクラブ	綾織児童館	0	0	3	
子育ておしゃべり会	白岩児童館	0	2	12	
つくしんぼクラブ	附馬牛児童館	0	3	4	
にこにこクラブ	小友児童クラブ	3	0	0	
ひまわりクラブ	土淵児童クラブ	3	4	8	
たけのこクラブ	青笹児童館	6	11	10	
かみごうっこクラブ	上郷児童館	6	14	9	
宮守カンガルー教室	宮守児童館	5	4	14	
計		34	54	82	

※他に遠野聖光のサークルあり。

## 4 地域子育て支援センターの運営

子育て家庭等に対する相談指導、子育てサークル活動等への支援は、社会福祉法人としての公益的な取組でもあることからその充実に努めました。

### (1) 地域子育て支援センター「まなざし」等の活動充実

各保育園の子育て支援推進担当者（主任保育士に発令）及び各児童館・児童クラブの遊びの

指導員と連動して活動の地域的温度差を解消し、子育て支援の拠点としてコーディネート機能の充実に努めました。

また、「まなざし」を利用する在宅親子に交流等の場を提供するとともに、親子同士の自主的活動支援及び各地域子育てサークル活動の支援並びに合同事業や専門職による相談等を企画実施しました。

## (2) 「こども本の森遠野」への運営参画

「こども本の森遠野」は、地域子育て支援センター「まなざし」の分室として位置づけ、職員2人を配置して子育て支援業務を行いました。絵本の読み聞かせや季節毎のイベントを実施するなど、親子のふれあいに努めました。

なお、こども本の森遠野は、遠野市から特別保育事業業務を受託していましたが、遠野市の方針変更により令和4年度で契約が終了したことから、運営参画も令和4年度で終了することになりました。

年間利用人数の状況

(単位：人)

R 4		R 3		R 2
まなざし	こども本の森	まなざし	こども本の森	まなざし
1,893	1,363	1,733	544	2,117

※年間利用人数は0歳児から2歳児とその保護者の人数

職員配置及び事業推進体制

(単位：人)

地域子育て支援センター所長 (病児等保育施設所長兼務)	まなざし	こども本の森遠野	地域子育て支援推進担当者	子育てサークル担当者
1	保育士等	保育士	各保育園主任保育士等	児童館等職員
	3	2	13	11

## (3) 支援団体等との連携

子育て支援連絡会「クレヨン」、協会退職職員（OB）組織「陽だまりの会」及び主任児童委員と連携し、在宅親子等への育児支援を実施しました。

## 5 病児等保育の受託

病児等への適切な看護及び保育を通して、保護者への育児相談及び就労支援の提供を行いました。特にも、県立遠野病院小児科医や市こども政策課等と新型コロナウイルス感染症の感染状況等の情報を共有し適切な対応を行うとともに、0～2歳児の利用時には、情緒の安定を図るため可能な限り1対1の保育看護に努めました。

また、保育園看護師との情報交換を定期的に行い、保育園での疾患対応や保健衛生に関する情報の共有を図るとともに、独自に作成した「遠野市保育協会登園基準マニュアル」に基づき、感染症の予防等の対応を徹底しました。

利用傾向については、発熱を伴う風邪で年間を通して利用する子どもや、季節により胃腸炎及びインフルエンザで利用する子どもが見られました。

病児等保育施設「わらっぺホーム」利用実績

	R 4	R 3	R 2
開 室 日 数	215日	172日	226日
利 用 延 べ 人 数	176人	219人	196人
1 日 平 均 利 用 者	0.77人	1.27人	0.87人

職員配置状況

(単位：人)

病児等保育施設所長 (地域子育て支援センター所長兼務)	主任看護師	保育士
1	1	1